

勝林寺事報

「今様」 「和讃」

の世

田介

「今様」とは、現代風な七五調を基本にした流行歌である。

上流社会の人たちの云う「雅歌（みやびうた）・風流歌（ふうりゆううた）」ではなく、平安末期から室町・鎌倉へかけて、社会の底辺でうたわれていた「うめき声」のような歌で、後白河上皇が「梁塵秘抄」—全国各地の荘園から上納品を運送してきた労働者などが歌つていた流行歌風の歌を書き集めたものであるが、その殆どは散逸して伝わっているものは数少ない。この歌にこめられたここはやがて次の世、「うたい」（謡曲）などの「怨靈もの」などにうたいつがれたと考えられる。

はかなき この世を過ぐすとて

海山かせぐとせしほどに
よろずのほとけに疎まれて

後生 わが身をいかにせん

漁師・獵師・炭焼き、馬子、チャセン、車借、白拍子、歌姫、遊び女、河原者、傀儡（ケグツ）女（人形使いの大通芸人）、遊び女、巫女（うらない芸の流浪女）、博打など

などがこれらのうたの担い手であった。

当時、全国的に天変地異相次ぎ旱魃・冷害など。そこから餓死者・災害被害者が巷にあふれた。当時は災害対策として全くなく、避難民は大挙して都に集まつた。その都京都も大火・つむじ風などに襲われるし、本来救援力であるはずの政治の中核も王朝貴族は院政の鎌倉幕府も内紛に滅んだ。そのように上を下への混乱期であった。すべてのものから見捨てられた京都にあつまつた避難民。無数の死体の腐臭ただようなかで「追いはぎ」「人さらい」「盗賊」横行のどんぞこの世の中でそれでも生きていかなければならなかつた。

『方丈記』にも記録されている。神仏にさへ見放されて、死ぬにも死ねずに今を生きている。なにを生きがいに生きているのか。死にも生きもならないこの身。

従来この「今様」は、多くの教科書には、他の「雅び歌」「和歌」と同じように紹介されて来たが、ほんとうにそうであろうか。わたしはそうではなく、これら一連の「今様」は、社会の最底辺で、それでも生きていかなければならぬひとたちの「呻き声」「嘆き声」「うらみ節」「呪いのうた」と聞こえる。

我を頼めて来ぬ男。
角（つの）三つ生いたる鬼になれさて人に疎（うそ）まれよ。
霜雪霰（あられ）降る水田の鳥となれさて足づめたかれ。
池の浮草となりねかし。と振り、かう振り揺られ歩りけ。
（私を待たしておいて来ぬ男への女の怨念。その女の恨みつらみを徹底的・具象的にぶつける）

法話カレンダー

九月の法話

み仏をよぶわが声は

み声なりけり

出典：甲斐和里子「草かご」

この歌を詠まれた甲斐和里子さんは、広島の勝願寺で、念佛に薰る恵まれた環境でお育ちになりました。のちに、夫である駒藏氏と共に京都女子学園を創設され、幼いころから育まれた浄土真宗のみ教えの根幹を教育現場で実践されました。また、歌人としても多くの和歌を詠まれ、真骨頂は阿弥陀如来のご本願を聞いたお念佛の喜びの歌です。この歌も、まさにその一首です。

（真宗教団連合HPより抜粋）

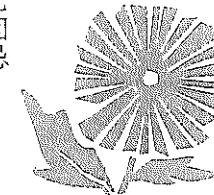
『わたしの称える「南無阿弥陀仏」の声は、そのまま、わたしを救わざにはいられました。』

（訳：坊主）

この人たちと唱和した親鸞様の歌。
無明煩惱しげくして
塵數（じきゅう）のごとく遍満す
愛憎違順（あいぜんたうじゅん）するることは
高峰岳山にことならず
（「正像末和讃」）

この老齢になった今も、この親鸞。ひとりよがりの競争心がべたべた身にまといついでうにもならぬ。愛欲・憎悪がいり交じりまたしあは、社会の最底辺で、それでも生きていかなければならぬひとたちの「呻き声」「嘆き声」「うらみ節」「呪いのうた」と聞こえ食い違ひする日常。あたかも峨々たる峰みねは、社会の最底辺で、それでも生きていかなければならぬひとたちの「呻き声」「嘆き声」「うらみ節」「呪いのうた」と聞こえがおし迫り来るようだ。

一日（日）	出石組 連研
四日（水）	財務委員会
七日（土）	岩上定幸宅 七回忌
八日（日）	田中達夫宅 忌明法要
一日（水）	アナウンス・放送係打ち合わせ
一二日（木）	接遇係 打ち合わせ
十五日（日）	田中輝幸宅 一七・二五回忌
二二日（木）	法要委員会
十六日（月）	直見 専福寺 七回忌
二一日（土）	アナウンス・放送係打ち合わせ
二三日（日）	涉外設営委員会
二八日（月）	アダウンス・放送係打ち合わせ
二九日（月）	彼岸会
二八日（土）	遠忌全體リハーサル
二九日（日）	前々住職坊守三三回忌
二九日（日）	七五〇回 大遠忌法要



九月 勝林寺 予定

葬儀

八月八日

八鹿 田中まつ枝様 九十一歳

（敬称略）

住職坊守二二十一回忌法事

勝林寺第十八代住職・坊守（住職の妻）の三十三回忌の「法事」が、九月二十八日にお勤め致します。この住職夫妻の事蹟は、『勝林寺寺報』今年一・二月号に記載しましたのでご覧下さい。

「法事」「法事」とは、一般に、仏様や亡き人を、子孫がお供養しお祭りすることと理解されています。日本古来の慰靈・鎮魂・追悼などの死者儀礼の感覚で行われているように見えます。

「法事」「法事」という言葉は、中国で浄土教を開いた曇鸞大師（七高僧の一人）の『淨土論註』という書物によく使われています。そこには如来さまはいろいろなてだてやしの救濟にはだいてくださる（それを「三嚴二十九種の莊嚴」といいますが）。その一々を説明するとき「ほとけさまがこの私に働きかけてくださる」という意味で「法事をなす」という語を述べておられます。

「法事」「法事」とは、如来様のお仕事です。亡くなつた方を通して如来様が私めあてに今もはたらいてくださつていることへの感謝のおつとめが「法事」です。

親鸞聖人七百五十回大遠忌法要

親鸞さまは浄土真宗の「開山」です。弘

長二年（紀元一二六二年）に九〇歳で亡くなりました。そのご恩徳を偲び報ずるため五年めごとに記念の「法要」が、真宗の本山・末寺で當まれて来ました。

親鸞さま以外のご門主は単に「遠忌」といいますが、親鸞さまの場合は特別に「大遠忌法要」と云い習わしていきます。

わたしは丁度大学卒業の年（昭和23年）蓮如上人の遠忌法要のとき、ご門主に一番近い位置でこの遠忌法要に参加しました。

以降、親鸞さまの大遠忌は勿論、蓮如さまや覚如さま等など、いろいろなかたの遠忌に勤め致しました。この住職夫妻の事蹟は、『勝

林寺寺報』今年一・二月号に記載しましたのでご覧下さい。

「法事」「法事」とは、一般に、仏様や亡き人を、子孫がお供養しお祭りすることと理解されています。日本古来の慰靈・鎮魂・追悼などの死者儀礼の感覚で行われているように見えます。

「法事」「法事」という言葉は、中国で浄土教を開いた曇鸞大師（七高僧の一人）の『淨土論註』という書物によく使われています。そこには如来さまはいろいろなてだてやしの救濟にはだいてくださる（それを「三嚴二十九種の莊嚴」といいますが）。その一々を説明するとき「ほとけさまがこの私に働きかけてくださる」という意味で「法事をなす」という語を述べておられます。

「法事」「法事」とは、如来様のお仕事です。亡くなつた方を通して如来様が私めあてに今もはたらいてくださつていることへの感謝のおつとめが「法事」です。

そこには如来さまはいろいろなてだてやしの救濟にはだいてくださる（それを「三嚴二十九種の莊嚴」といいますが）。その一々を説明するとき「ほとけさまがこの私に働きかけてくださる」という意味で「法事をなす」という語を述べておられます。

「法事」「法事」とは、如来様のお仕事です。亡くなつた方を通して如来様が私めあてに今もはたらいてくださつていることへの感謝のおつとめが「法事」です。

九月二十八日（土）前々住職・坊守三三回忌法要



記

九月二十九日（日）前々住職・坊守三三回忌法要



記

九月二十九日（日）秋彼岸法要



記

九月二十三日（月）秋分の日秋彼岸法要



記

九月二十九日（日）秋彼岸法要



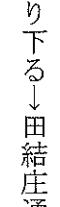
記

九月二十九日（日）秋彼岸法要



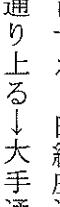
記

九月二十九日（日）秋彼岸法要



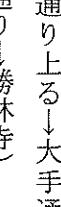
記

九月二十九日（日）秋彼岸法要



記

九月二十九日（日）秋彼岸法要



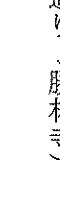
記

九月二十九日（日）秋彼岸法要



記

九月二十九日（日）秋彼岸法要



記

九月二十九日（日）秋彼岸法要



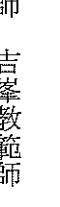
記

九月二十九日（日）秋彼岸法要



記

九月二十九日（日）秋彼岸法要



記

篆書で彫った「弘原山 勝林寺」

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記

記